

# ふるさと再発見

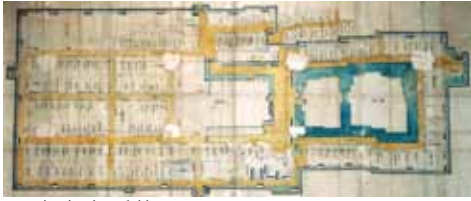
## ー二つの藩士屋敷図ー

島原には、現在2系統の『藩士屋敷図』が伝来しています。

これによって、藩士たちの屋敷が当時どこにあったのかを知ることが出来ます。

一つは本光寺蔵（後年の写本が松平文庫にも伝わる）で享保期以前の城内の様子を描いたもの。もう一つは幕末ごろの調査を元に描かれたもの（松平文庫蔵）で、城内と鉄砲町の様子がわかります。

今の感覚と違い、屋敷地は個人が所有するものでなく、原則、藩士一人に対して拝領されたもので、拝借しているという感覚だったと思われるかもしれません。そのため、藩士の住まいは想像以上に流動的なものでした。間に戸田氏



▲本光寺所蔵



▼松平文庫所蔵

が治めた時期があったとはいえず、二つの藩士屋敷図を見比べてみても、ほとんどの藩士の住まいが前後で異なっています。

また、本光寺蔵の図を見ると、「仕立師」といった職人の住まいや、「鉄砲矢場」、「薪長屋」、「牢屋」といった邸宅と異なるところ、「明屋敷」といった居住者のいない屋敷地など、「藩士屋敷図」の名前からは想像できない発見もあります。

今は見ることでできない、地域のさまざまな姿を、これらの屋敷図は教えてくれます。  
（松平文庫学芸員 吉田信也）

## クローズアップ Close Up!

### 島原市弓道協会



です。

会長の本田哲也さんに伺うと「弓道は空いた時間に一人でも練習でき、生涯続けられる競技です。また、年齢に関係なく競うことができ、若い人も対等な勝負ができることも魅力の一つです」と話してくれました。

また、島原市で昨年開催された長崎がんばらば国体の弓道競技について「国体開催の5年前から準備をしてきましたが、皆さんのおかげで無事終えることができました。弓道を初めて見る人など多くの人に応援に来てもらい、弓道の楽しさを身近で感じてもらうことができたと思います」と笑顔で話してくれました。

皆さんも、礼節を学び、精神集中を図れる弓道を始めてみませんか。詳しくは、市霊丘公園体育館・弓道場（☎2206）に問い合わせてください。

張りつめた空気の中で「シュツ」と矢を射る音が響き渡る市霊丘公園体育館・弓道場。

今回、紹介するのは「島原市弓道協会」の皆さんです。

弓道は28メートル先にある的へ矢を射て、命中した本数を競う競技で、日本古来の武道です。

協会は、創立から60年あまり経過し、中学生から一般まで現在63人が活動しています。

主な活動は、個人練習のほか初心者教室の開催などを行っているそう

